

金井町の6つの町から成り、このうち、徳次郎町は上町、中町、下町、門前、田中、西根の6集落で構成されている。自治会は13あり、その内訳は徳次郎町に集落単位に6つの自治会、各町（徳次郎町以外）ごとに5つの自治会があり、更に山王団地自治会、金井町自治会がある。

平成24年10月末日現在の富屋地区の世帯数は1,793世帯で、人口は4,342人（男性2,010人、女2,332人）である。

地勢を見ると、東西、北の三方を山に囲まれ、北部は篠井三山から連なる飯盛山とそれに続く富屋連峰（高館山、黒戸山、大峰山、兜山）、東は笠松山や御岳山、西は富屋の主峰半蔵山や男抱山がそれぞれそびえている。

北西部から南東部に向かって清流田川が南下し、その両岸は河岸段丘が発達し、肥沃な沖積土を形成している。また右岸の河岸段丘に続く台地は、黒ぼく土で覆われている。水系は、田川から取水した左岸の用水（大網用水、上横倉用水、下横倉用水）と、右岸の用水（徳次郎六郷用水、新堀・宝木用水、上下金井用水）が、水田を潤している。西部には海底火山によって噴出した堆積物（凝灰岩）の層があり、徳次郎石として採石、細工されてきた。

道路交通については、江戸時代から開かれた日光街道が南北に縦断し、それを横断する形で国道293号線が東西に走っている。また、南から北東部に向かって東北自動車道が、日光街道と平行する形で日光宇都宮道路が走り、その拠点として宇都宮及び徳次郎インターチェンジが設けられており、当地区は古くからそして今日も、交通の要衝になっている。

産業については主たる業は農業であり、かつては米麦のほか、畑地において特産のねぎ、にんじん、ごぼうなどの根菜類の栽培が盛んであったが、現在は収益性の高いハウストマトやいちご、ぶどう、りんごなどに経営転換している。商工業関係では大規模な工場はなく、いずれも中小規模の電気部品工場、食品製造工場、スーパーマーケット、飲食店等が立地している。観光業としては、国内有数の民間動物園である宇都宮動物園が開園しているほか、民間温泉施設としてただおみ温泉が営業している。



清流田川と北方の山並み



宇都宮インターチェンジ



りんご園



宇都宮動物園